



# 2026年3月期 通期 決算説明会

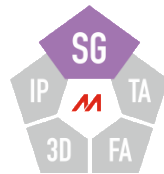
2026年5月27日

株式会社 **ミマキエンジニアリング**  
(証券コード：6638) 東証プライム市場

2026年3月期 連結業績

1. 第4四半期・通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
3. 資本コストと株価を意識した  
経営の実現に向けた対応
4. 中長期成長戦略「MI30」進捗
5. APPENDIX

NEW



## UJ330H-160

ロール素材への出力とリジッド（ボード）素材のダイレクトプリントを1台で実現するハイブリッドUVプリンタ

省スペース・設備投資の抑制を両立する「Next Standard」  
サイン制作事業者や印刷会社をはじめとするグラフィック制作現場へ提案  
\* 2026年3月リリース

# 連結業績ハイライト① (2026年3月期 4Q実績)



## 売上高

**23,341**百万円

前年同期比 +3.3%

## 営業利益

**3,085**百万円

前年同期比 +82.7%  
営業利益率 13.2%

## 経常利益

**2,904**百万円

前年同期比 +83.0%  
経常利益率 12.4%

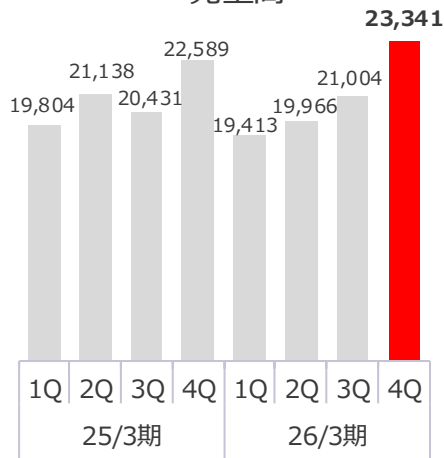
## 四半期純利益\*

**2,220**百万円

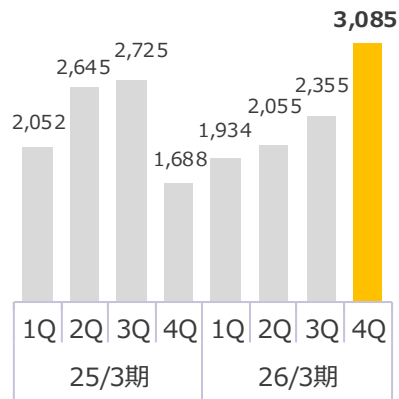
前年同期比 +83.3%  
四半期純利益率 9.5%

\*親会社株主に帰属する四半期純利益

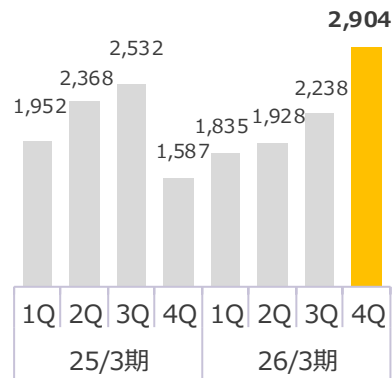
## 売上高



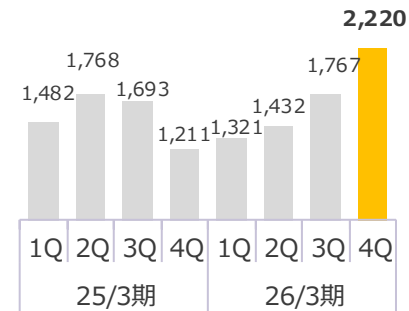
## 営業利益



## 経常利益



## 四半期純利益\*



# 連結業績ハイライト② (2026年3月期 4Q実績)



2025年3月期				2026年3月期(1-3月)				
		4Q実績	売上高 比率	4Q実績	売上高 比率	前年同期比増減		
(単位：百万円)						金額	率	率(除為替)
売上高		22,589	-	<b>23,341</b>	-	+751	+3.3%	-1.8%
営業利益		1,688	7.5%	<b>3,085</b>	13.2%	+1,396	+82.7%	+43.8%
経常利益		1,587	7.0%	<b>2,904</b>	12.4%	+1,317	+83.0%	-
四半期純利益*		1,211	5.4%	<b>2,220</b>	9.5%	+1,009	+83.3%	-
為替レート	米ドル	152.61円	-	156.87円	-	+4.26円	+2.8%	-
(期中平均)	ユーロ	160.50円	-	183.65円	-	+23.15円	+14.4%	-

\*親会社株主に帰属する四半期純利益

- 売上高は、前年同期比 751百万円の増収 (+3.3%、内為替影響 +1,156百万円)、予想比上振れ。為替影響除きでは1.8%減  
製品市場別は、SGは複数の新製品が想定を上回る販売となり売上拡大に寄与。TAは4Qリリースの昇華転写フラッグシップモデルや特定用途の専用機種の販売が好調。インクも2桁成長。IPは本体の大型FB\*の販売が好調も前年同期比では減少。インクは2桁増収。FAは自動車業界向けFA装置が大きく減少
- 営業利益は、前年同期比 1,396百万円の増益 (+82.7%、内為替影響 +656百万円)も営業利益率は13.2%。過去最高益  
前年同期に一時的な費用の発生に加えて為替が寄与。売上原価率は、原価低減活動が奏功。販管費は、研究開発費は計画比以上に投資するも、その他の費用は売上に応じた執行に努めたことで計画どおり推移

売上高

**83,725**百万円

前年同期比  $\Delta$ 0.3%

営業利益

**9,431**百万円

前年同期比 +3.5%  
営業利益率 11.3%

経常利益

**8,907**百万円

前年同期比 +5.5%  
経常利益率 10.6%

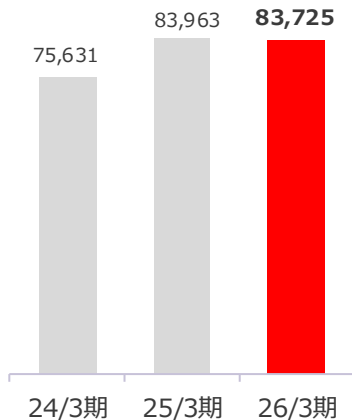
当期純利益\*

**6,741**百万円

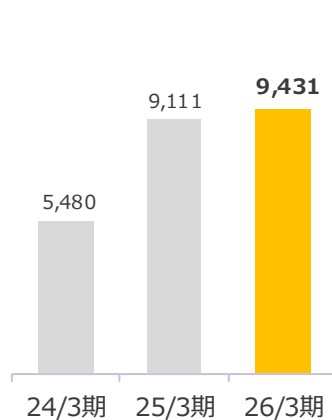
前年同期比 +9.5%  
当期純利益率 8.1%

\*親会社株主に帰属する当期純利益

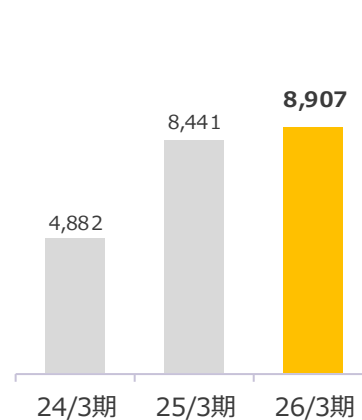
売上高



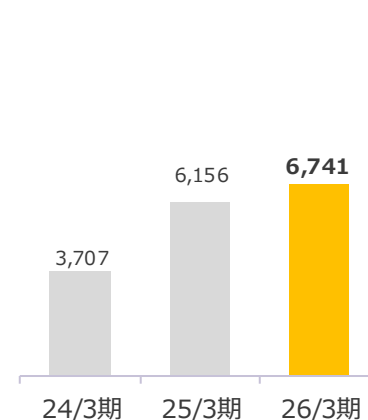
営業利益



経常利益



当期純利益\*



# 連結業績ハイライト④ (2026年3月期 通期実績)



(単位：百万円)	2025年3月期		2026年3月期						
	通期実績	売上高比率	通期実績	売上高比率	金額	前期比増減率	率(除為替)	前回予想	前回予想比増減額
売上高	83,963	-	<b>83,725</b>	-	-238	-0.3%	-1.3%	82,500	+1,225
営業利益	9,111	10.9%	<b>9,431</b>	11.3%	+319	+3.5%	-2.4%	8,500	+931
経常利益	8,441	10.1%	<b>8,907</b>	10.6%	+465	+5.5%	-	7,800	+1,107
当期純利益*	6,156	7.3%	<b>6,741</b>	8.1%	+585	+9.5%	-	5,500	+1,241
為替レート	米ドル 152.57円	-	150.78円	-	-1.79円	-1.2%	-	147.56円	+3.22円
(期中平均)	ユーロ 163.74円	-	174.79円	-	+11.05円	+6.7%	-	166.88円	+7.91円

\*親会社株主に帰属する当期純利益

- 売上高は、前年同期比 238百万円の減収（-0.3%、内為替影響 +880百万円）予想比上振れ。為替影響を除くと1.3%減  
製品市場別は、SGは新製品のエコソルベントのエントリーモデルが期を通じて好調、インク堅調も、既存のUVモデルが伸び悩み小幅な増収。  
IPはインク好調や本体が下期より小型FB回復基調も新製品の端境期影響による上期軟調を補えず減収。TAはインクは好調に推移するも  
DTF\*モデルの販売減により本体販売が伸び悩み。FAは自動車業界向けのFA装置の減少により大幅減収
- 営業利益は、前年同期比 319百万円の増益（+3.5%、内為替影響 +539百万円）営業利益率は11.3%。原価低減活動の継続  
や製品ミックスの変化により収益性改善。販管費は、将来の成長にかかる研究開発費や人件費等の投資は計画どおりに執行した一方で、製  
品の品質改善に伴い市場対応にかかる費用が減少。為替も押し上げ要因となり計画比上振れ。過去最高益。
- 4Q末バランスシート…重点指標CCC\*は、在庫増加により高止まり傾向  
(2025.3末：4.28月 →25.6末：4.96月 →25.9末：4.85月 →25.12末：4.51月 →26.3末：4.67月)

# 営業利益増減要因 (25/3期 vs 26/3期)

## ■ 売上・原価・営業利益への為替影響

売上高 880 - 売上原価 195 - 販管費 145 = 営業利益 539

### 【通貨別影響額】

USD	152.57円	→	150.78円	-144
EUR	163.74円	→	174.79円	+802
CNY	21.10円	→	21.25円	-12
TRY	4.48円	→	3.65円	-149
THB	4.38円	→	4.68円	+84
その他 ( INR、IDR 等)				-41
			合計	+539

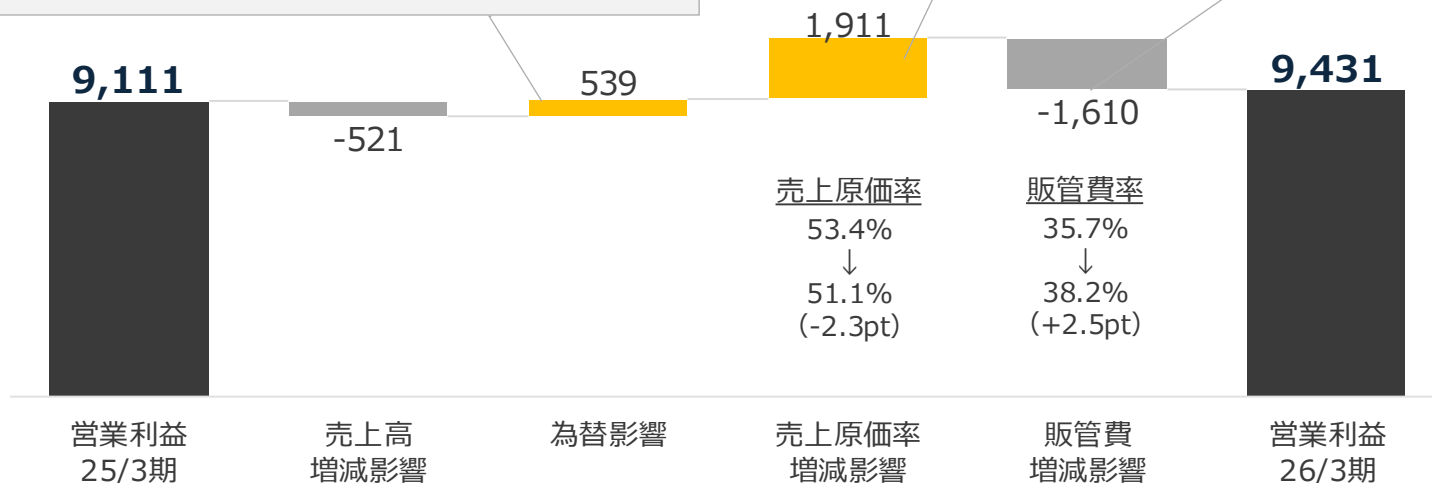
### 【売上原価率増減要因】

インク・本体機種のプロダクトミックス  
の変化による改善  
売上原価率は改善基調を継続

### 【販管費増減要因】

研究開発費	+1,483
人件費	+687
消耗品費	-209
その他	-351
合計	+1,610

(単位：百万円)



+3億19百万円

# 市場別売上高（2026年3月期 4Q実績）



		2025年3月期		2026年3月期(1-3月)				
(単位：百万円)		4Q実績	構成比率	4Q実績	前年同期比増減			構成比率
					金額	率	率(除為替)	
■	SG市場向け	8,998	39.8%	<b>9,779</b>	+780	+8.7%	+2.0%	41.9%
■	IP市場向け	6,086	26.9%	<b>6,088</b>	+2	+0.0%	-4.6%	26.1%
■	TA市場向け	2,488	11.0%	<b>2,684</b>	+195	+7.9%	+1.2%	11.5%
■	FA事業	1,968	8.7%	<b>1,153</b>	-814	-41.4%	-41.6%	4.9%
■	その他	3,046	13.5%	<b>3,634</b>	+587	+19.3%	-	15.6%
	合計	22,589	100.0%	<b>23,341</b>	+751	+3.3%	-1.8%	100.0%

- SG市場向け : プリント本体は、新製品のエコソルベントモデルや上期軟調のUVインク搭載モデルなどの既存製品が4Qにおける販売施策の効果により、各ラインナップともに想定を上回り2桁増収。インクも好調に推移
- IP市場向け : プリント本体は、大型FBが好調も小型において欧州・北米の回復基調は継続するも前年同期比の伸びは限定的。インクは2桁成長も全体では前年並み
- TA市場向け : プリント本体は、DTFモデルが大幅減も、減少幅は縮小傾向。2026年1月リリースの昇華転写のフラッグシップモデルの順調な立ち上がりや特定用途の専用機種が欧州・日本において好調に推移した背景により増収。インクの大幅増もあり全体では増収に転換
- FA事業 : 自動車業界向けのFA装置が大幅減少

# 市場別売上高（2026年3月期 通期実績）

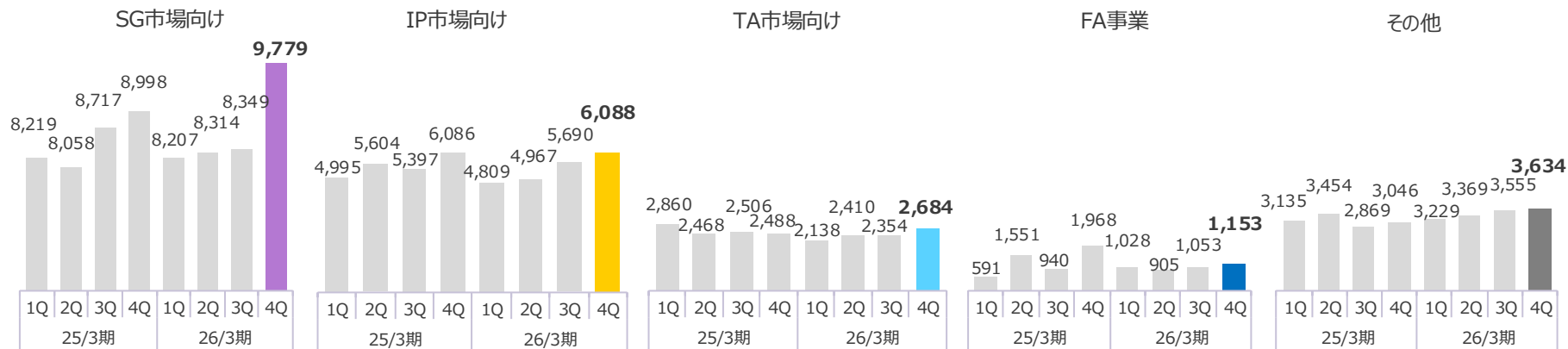


2025年3月期

2026年3月期

(単位：百万円)	通期実績	構成比率
SG市場向け	33,994	40.5%
IP市場向け	22,084	26.3%
TA市場向け	10,324	12.3%
FA事業	5,053	6.0%
その他	12,506	14.9%
合計	83,963	100.0%

通期実績	金額	前期比増減率	率(除為替)	構成比率	前回予想	前回予想比増減額
<b>34,650</b>	+655	+1.9%	+0.6%	41.4%	33,191	+1,458
<b>21,557</b>	-527	-2.4%	-3.5%	25.7%	21,927	-370
<b>9,588</b>	-736	-7.1%	-8.0%	11.5%	10,345	-757
<b>4,140</b>	-912	-18.1%	-18.0%	4.9%	4,558	-417
<b>13,788</b>	+1,281	+10.2%	-	16.5%	12,475	+1,312
<b>83,725</b>	-238	-0.3%	-1.3%	100.0%	82,500	+1,225



# エリア別売上高（2026年3月期 4Q実績）



## 2025年3月期

(単位：百万円)	2025年3月期	
	4Q実績	構成比率
■ 日本	6,686	29.6%
■ 北米	4,170	18.5%
(現地通貨/\$)	27.5M	-
■ 欧州	5,146	22.8%
(現地通貨/€)	32.0M	-
■ アジア・オセアニア	4,135	18.3%
■ その他	2,450	10.8%
合計	22,589	100.0%

## 2026年3月期(1-3月)

4Q実績	前年同期比増減		構成比率
	金額	率	
<b>6,085</b>	-601	-9.0%	26.1%
<b>4,828</b>	+657	+15.8%	20.7%
<b>30.7M</b>	+3.2M	+11.9%	-
<b>5,669</b>	+522	+10.2%	24.3%
<b>30.8M</b>	-1.1M	-3.7%	-
<b>4,058</b>	-76	-1.9%	17.4%
<b>2,700</b>	+249	+10.2%	11.5%
<b>23,341</b>	+751	+3.3%	100.0%

- 日本： TAは新製品や特定用途の専用機種の販売が好調。SG・IPはプリンタ本体が大幅減。インクは、TA・IPが2桁増、SGも堅調。全体は、FAの自動車業界向けFA装置の大幅減もあり減収
- 北米： 全体2桁増収。SG本体は全ラインナップ好調で著しく増加。IPは小型の上位レンジが好調に推移し大型、ミドルサイズも好調。TAはDTFモデルの販売の大幅な減少を受け減収。インク全体も2桁増収
- 欧州： 為替の円安によるプラス影響が寄与。全体は、2桁増収。IP・SGは本体も2桁増収。TAはハイブリッドモデルなど伸長しDTFの影響あるも若干の減少。インクはTAが飛躍的に伸長。IP・SGも増。
- A・O： SGはUV搭載型好調で本体は増収。IP・TAは本体大幅減。インクはIPが飛躍的増加、SG・TAは減。全体も減収

# エリア別売上高 (2026年3月期 通期実績)



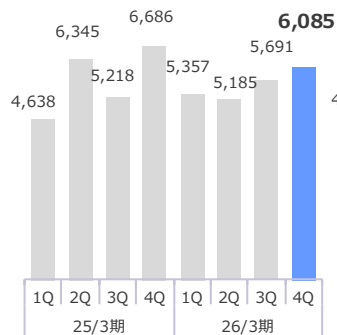
2025年3月期

2026年3月期

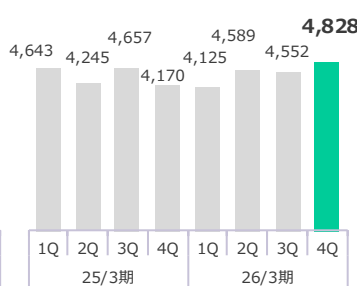
(単位: 百万円)	通期実績	構成比率
日本	22,888	27.3%
北米	17,716	21.1%
(現地通貨/ \$)	116.3M	-
欧州	19,323	23.0%
(現地通貨/ €)	118.0M	-
アジア・オセアニア	15,037	17.9%
その他	8,997	10.7%
合計	83,963	100.0%

通期実績	前期比増減 金額	率	構成比率	前回予想	前回予想比 増減額
<b>22,319</b>	-569	-2.5%	26.7%	22,286	+32
<b>18,095</b>	+379	+2.1%	21.6%	17,324	+770
<b>119.9M</b>	+3.5M	+3.1%	-	119.4M	+0.5M
<b>19,403</b>	+79	+0.4%	23.2%	18,156	+1,246
<b>110.6M</b>	-7.4M	-6.3%	-	114.0M	-3.3M
<b>14,748</b>	-289	-1.9%	17.6%	15,060	-312
<b>9,159</b>	+161	+1.8%	10.9%	9,671	-511
<b>83,725</b>	-238	-0.3%	100.0%	82,500	+1,225

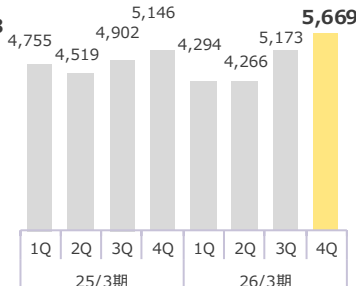
日本



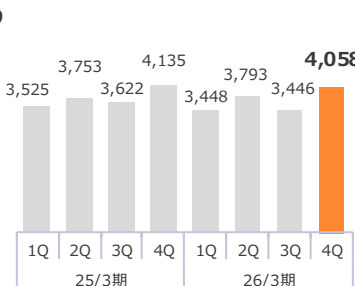
北米



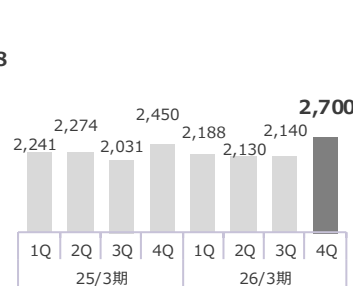
欧州



アジア・オセアニア



その他



# 要約貸借対照表 (2026年3月31日現在)

(単位：百万円)		2025年 3月31日	2026年 3月31日	増減額	増減率
資産の部	現金及び預金	15,448	<b>16,365</b>	+917	+5.9%
	受取手形及び売掛金 (※1)	14,838	<b>16,175</b>	+1,337	+9.0%
	たな卸資産	24,863	<b>27,692</b>	+2,828	+11.4%
	その他流動資産	2,453	<b>2,442</b>	-11	-0.5%
	流動資産合計	57,603	<b>62,675</b>	+5,072	+8.8%
	有形固定資産	13,650	<b>15,376</b>	+1,726	+12.6%
	無形固定資産	847	<b>1,053</b>	+205	+24.3%
	投資その他の資産	4,072	<b>3,784</b>	-288	-7.1%
	固定資産合計	18,570	<b>20,214</b>	+1,643	+8.8%
合計	76,174	<b>82,889</b>	+6,715	+8.8%	
負債・純資産の部	支払手形及び買掛金 (※1)	8,847	<b>7,448</b>	-1,398	-15.8%
	短期借入金 (※2)	16,557	<b>19,606</b>	+3,048	+18.4%
	その他流動負債	11,886	<b>11,387</b>	-499	-4.2%
	流動負債合計	37,291	<b>38,442</b>	+1,150	+3.1%
	長期借入金	3,972	<b>1,975</b>	-1,996	-50.3%
	その他固定負債	2,536	<b>2,365</b>	-170	-6.7%
	固定負債合計	6,508	<b>4,341</b>	-2,167	-33.3%
	負債合計	43,800	<b>42,783</b>	-1,016	-2.3%
	純資産合計	32,373	<b>40,106</b>	+7,732	+23.9%
合計	76,174	<b>82,889</b>	+6,715	+8.8%	

- ❖ 資産の部 +6,715
- ・ 流動資産 (+5,072)  
→商品及び製品の増加等
  - ・ 有形固定資産 (+1,726)  
→建設仮勘定の増加等
  - ・ 投資その他の資産 (-288)

- ❖ 負債の部 -1,016
- ・ 流動負債 (+1,150)  
→短期借入金の増加等
  - ・ 固定負債 (-2,167)  
→長期借入金の減少等

- ❖ 純資産の部 +7,732  
→利益剰余金の増加等

(※1) 電子記録債権、電子記録債務を含む (※2) 1年内返済予定の長期借入金を含む

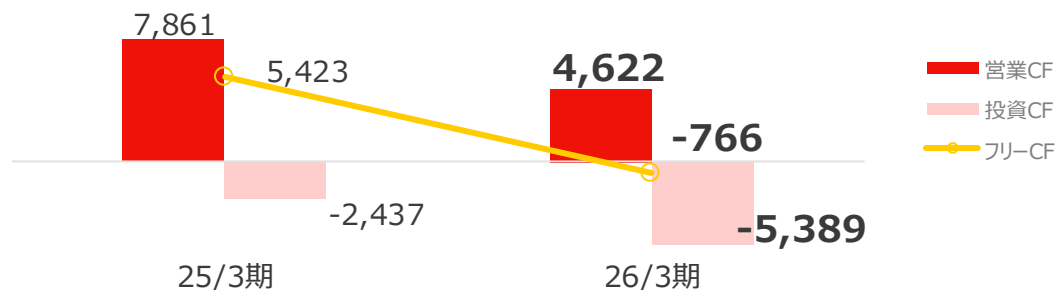
# キャッシュ・フロー（2026年3月31日現在）



(単位：百万円)	2025年3月期	2026年3月期	主な内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,861	4,622	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 売上債権の減少</li> <li>・ 仕入債務の減少</li> <li>・ 棚卸資産の増加</li> <li>・ 為替差益の増加</li> </ul>
投資活動によるキャッシュ・フロー	-2,437	-5,389	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期預金預入の増加</li> <li>・ 有形固定資産取得の増加</li> </ul>
フリー・キャッシュ・フロー	5,423	-766	
財務活動によるキャッシュ・フロー	-7,542	-1,315	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短期借入金の増加</li> <li>・ 配当金支払の増加</li> </ul>
現金及び現金同等物の期末残高	11,875	10,419	

## ■ 営業キャッシュ・フロー、投資キャッシュ・フロー、フリー・キャッシュ・フローの推移

(単位：百万円)



## 2026年3月期 連結業績

1. 第4四半期・通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
3. 資本コストと株価を意識した経営の実現に向けた対応
4. 中長期成長戦略「MI30」進捗
5. APPENDIX



### ***UJF-7151 plus II e***

従来機「UJF-7151 plusII」で評価された高画質プリントと産業用途に求められる高精度な位置決め・重厚メディア対応や安定性を保ち、“厚く盛る”“深く打つ”機能や生産性・ランニングコスト削減を追求したハイパフォーマンスモデル

# 連結業績予想ハイライト (2027年3月期)



	2026年3月期			2027年3月期						前期比増減		
	通期実績	売上高比率	上期予想	売上高比率	下期予想	売上高比率	通期予想	売上高比率	金額	率	率(除為替)	
(単位: 百万円)												
売上高	83,725	-	43,200	-	47,800	-	<b>91,000</b>	-	+7,274	+8.7%	+11.5%	
営業利益	9,431	11.3%	4,000	9.3%	5,500	11.5%	<b>9,500</b>	10.4%	+68	+0.7%	+14.6%	
経常利益	8,907	10.6%	3,600	8.3%	5,000	10.5%	<b>8,600</b>	9.5%	-307	-3.5%	-	
当期純利益*	6,741	8.1%	2,500	5.8%	3,600	7.5%	<b>6,100</b>	6.7%	-641	-9.5%	-	
為替レート	米ドル	150.78円	-	146.00円	-	146.00円	-	146.00円	-	-4.78円	-3.2%	-
(期中平均)	ユーロ	174.79円	-	170.00円	-	170.00円	-	170.00円	-	-4.79円	-2.7%	-

\*親会社株主に帰属する当期純利益

## 連結業績予想の前提

- 売上高 …産業用インクジェットプリンタの市場環境は底堅く推移する見込みのもと、新製品の市場投入及び顧客志向の営業戦略の継続により、SG、IP、TAの各市場向け・FA事業ともに増収を想定。地域別も各エリアで売上拡大の見込み
- 営業利益…売上原価は、品質改善等による売上原価低減活動を継続。販管費は、研究開発費や人件費に加えて営業強化等の将来成長のための積極投資は継続。支払手数料等のコストコントロールは状況を踏まえつつ効果的に充当し、売上原価率を意識したオペレーションを推進
- 為替レート的前提：USD:146円/EUR:170円

## 中東等の国際政治情勢は、先行きの不確実性は強く残るも経済動向に注視しつつ以下の想定

- 大きく影響を受けると想定される中東エリアにおける売上、利益は織り込まず
- 原油価格高騰や物流の混乱及び為替変動リスクの見通しは困難な状況にあるも、原材料確保等の対応により、中東情勢が今後大きく悪化しないことを前提に、現時点において業績への影響は限定的と見込む

## 米国の関税還付の影響は未反映

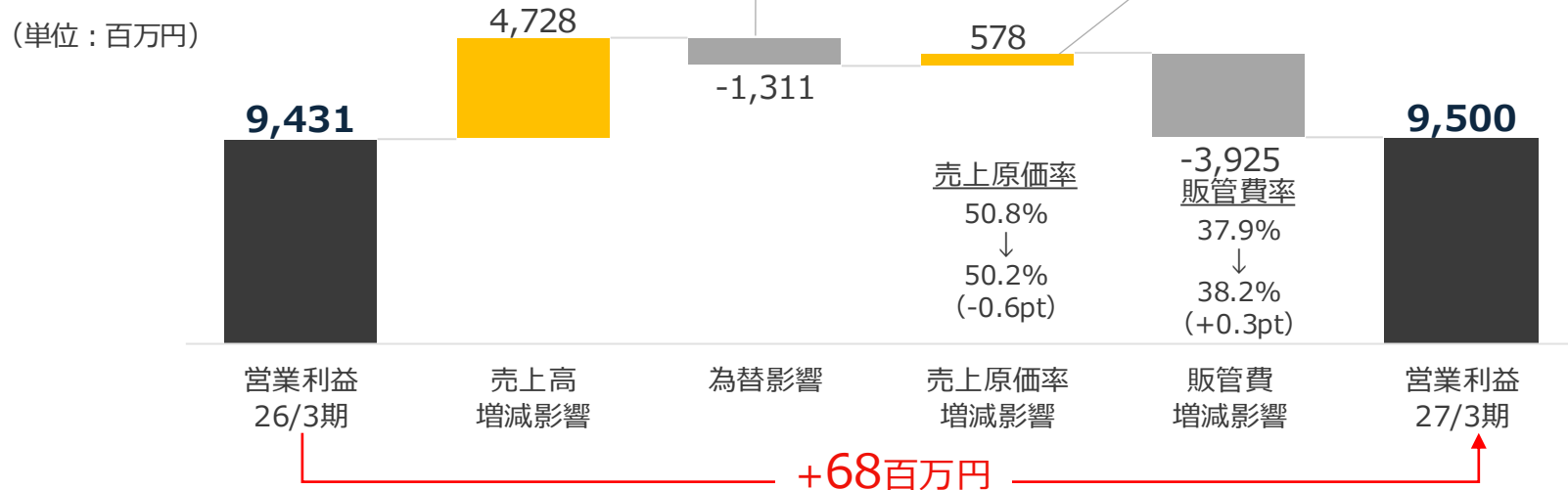
# 営業利益増減要因 (26/3期 実績 vs 27/3期 予想)

- 為替感応度 (1円/年) : USD 売上高 182百万円、営業利益 95百万円  
EUR 売上高 137百万円、営業利益 81百万円

■ 売上・原価・営業利益への為替影響  
売上高 -2,333 + 売上原価 469 + 販管費 552 = 営業利益-1,311  
【通貨別影響額】

為替感応度 (1円/年)	USD/	150.78円	→	146.00円	-458
売上高	EUR/	174.79円	→	170.00円	-392
営業利益	CNY/	21.25円	→	21.00円	+23
USD	BRL/	27.76円	→	24.50円	-250
182	THB/	4.68円	→	4.41円	-90
95	その他 (AUD、TRY 等)				-143
EUR					
137					
81					
				合計	-1,311

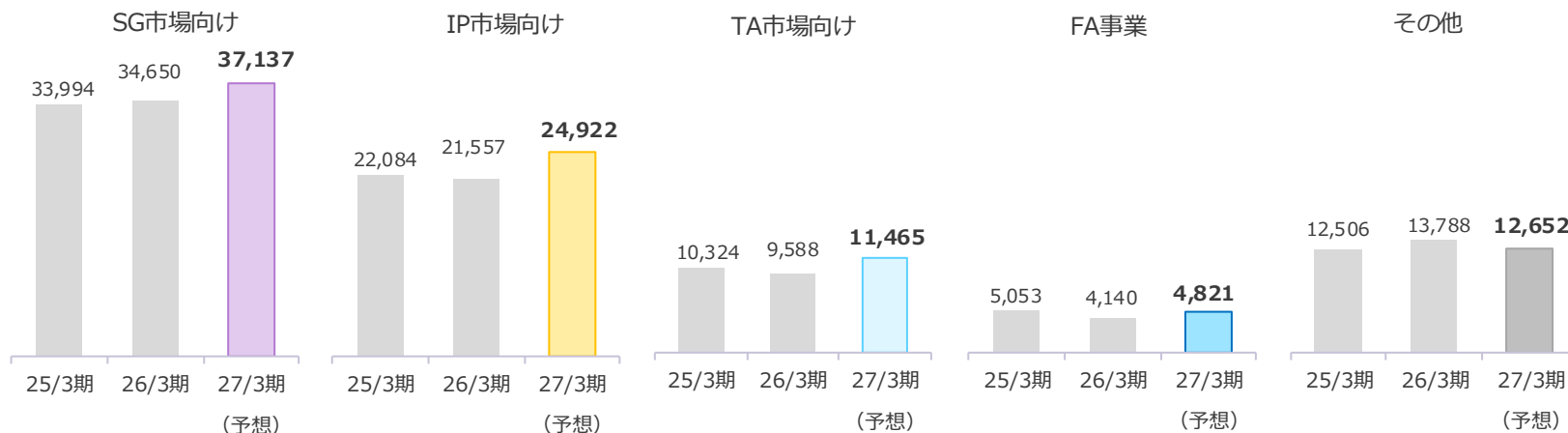
【売上原価率増減要因】  
インクと本体モデルの切り替え等によるミックスの変化など、引き続き原価低減活動に取り組むことで原価改善を見込む



# 市場別売上高予想 (2027年3月期)



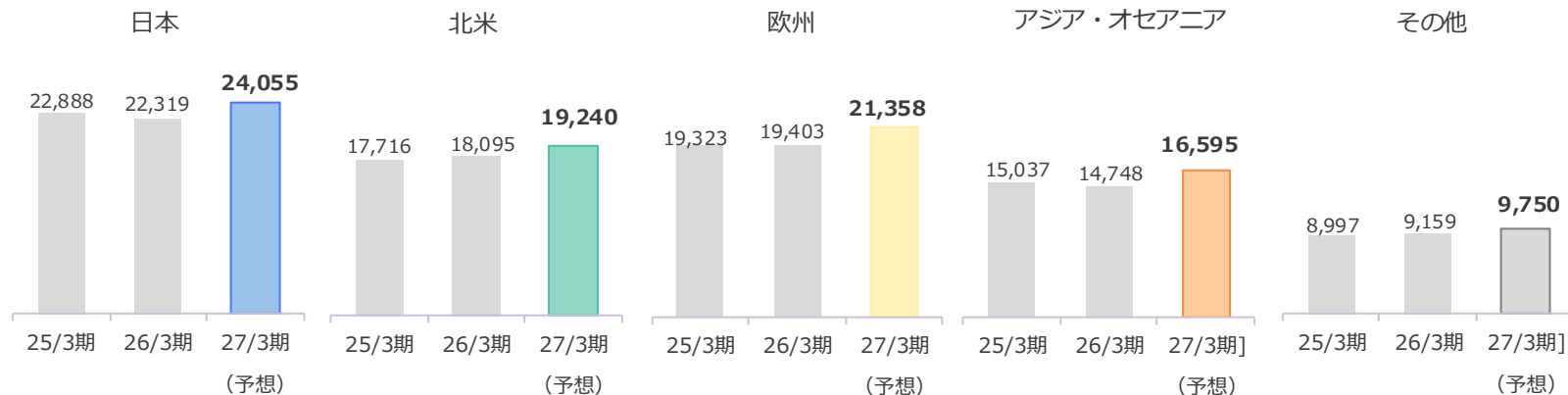
(単位：百万円)	2026年3月期		2027年3月期						
	通期実績	構成比率	上期予想	下期予想	通期予想	金額	前期比増減率	率(除為替)	構成比率
SG市場向け	34,650	41.4%	18,091	19,045	<b>37,137</b>	+2,486	+7.2%	+10.6%	40.8%
IP市場向け	21,557	25.7%	11,037	13,885	<b>24,922</b>	+3,365	+15.6%	+18.0%	27.4%
TA市場向け	9,588	11.5%	5,383	6,081	<b>11,465</b>	+1,877	+19.6%	+24.2%	12.6%
FA事業	4,140	4.9%	2,323	2,497	<b>4,821</b>	+680	+16.4%	+16.4%	5.3%
その他	13,788	16.5%	6,363	6,289	<b>12,652</b>	-1,136	-8.2%	-	13.9%
合計	83,725	100.0%	43,200	47,800	<b>91,000</b>	+7,274	+8.7%	+11.5%	100.0%



# エリア別売上高予想 (2027年3月期)



(単位: 百万円)	2026年3月期		2027年3月期					
	通期実績	構成比率	上期予想	下期予想	通期予想	前期比増減金額	率	構成比率
日本	22,319	26.7%	11,628	12,427	<b>24,055</b>	+1,736	+7.8%	26.4%
北米	18,095	21.6%	9,110	10,129	<b>19,240</b>	+1,144	+6.3%	21.2%
(現地通貨/\$)	119.9M	-	62.4M	69.3M	<b>131.7M</b>	+11.8M	+9.9%	-
欧州	19,403	23.2%	9,950	11,407	<b>21,358</b>	+1,954	+10.1%	23.5%
(現地通貨/€)	110.6M	-	58.5M	67.1M	<b>125.6M</b>	+14.9M	+13.5%	-
アジア・オセアニア	14,748	17.6%	7,756	8,839	<b>16,595</b>	+1,847	+12.5%	18.2%
その他	9,159	10.9%	4,753	4,996	<b>9,750</b>	+591	+6.5%	10.7%
合計	83,725	100.0%	43,200	47,800	<b>91,000</b>	+7,274	+8.7%	100.0%

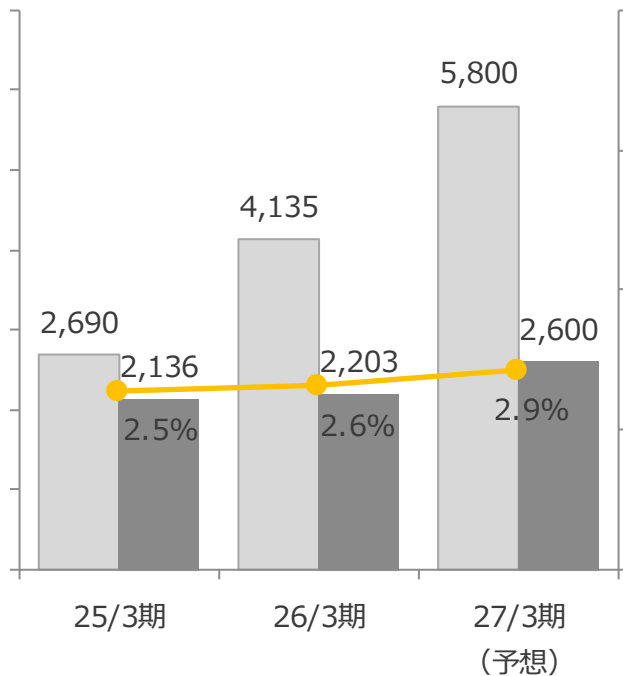


# 設備投資、減価償却、開発投資予想（2027年3月期）

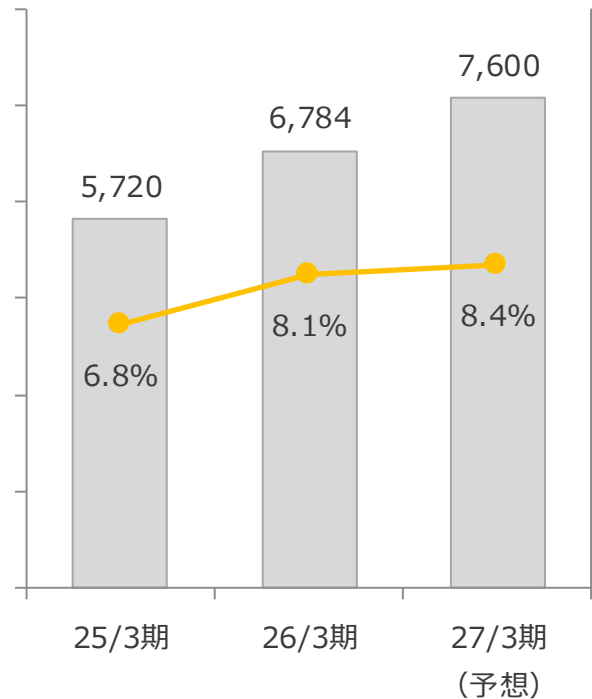


(単位：百万円)

■ 設備投資 ■ 減価償却費 ● 減価償却費対売上比率



■ 開発投資 ● 対売上比率



販管費における「研究開発費」  
 26/3期 5,155百万円  
 27/3期 4,904百万円 (予想)

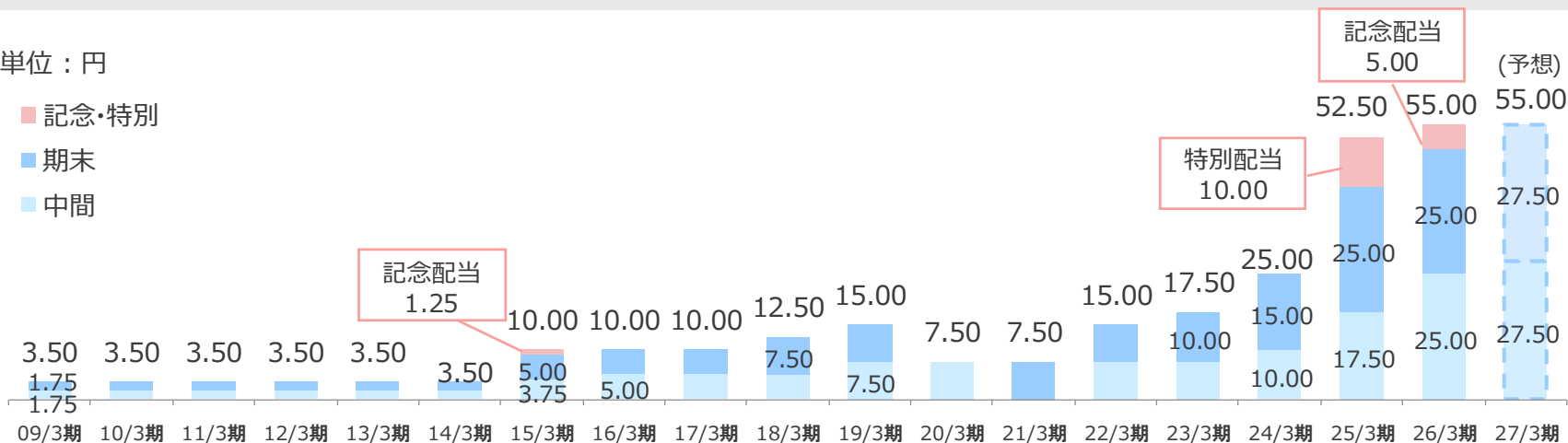
※ 上記の金額は、研究開発活動に係る費用の総額を示すもので、既存製品の改良、応用等に関する費用が含まれております。

## 株主還元の方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、業績の成長に見合った成果の配分を安定的かつ継続的に行っていくことを基本方針としています

- 2026年3月期 中間：25.0円、 期末：30.0円（内記念配当：5.0円）  
業績及び今後の事業見通し並びに安定的・継続的な株主還元方針等を総合的に勘案し、記念配当を含めた**年55.0円**に増配
- 2027年3月期(予想) 中間：27.5円、 期末：27.5円  
今後の事業見通し並びに安定的・継続的な株主還元方針等を総合的に勘案し、**年55.0円**を予想

単位：円



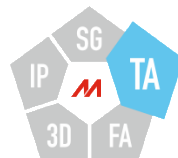
※ 2015年3月期の記念配当は東証一部上場に係るものです

※ 2015年4月1日を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しています（分割前の配当金は遡及修正して表示）

NEW

## 2026年3月期 連結業績

1. 第4四半期・通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
3. 資本コストと株価を意識した経営の実現に向けた対応
4. 中長期成長戦略「MI30」進捗
5. APPENDIX



### **TS330-1800**

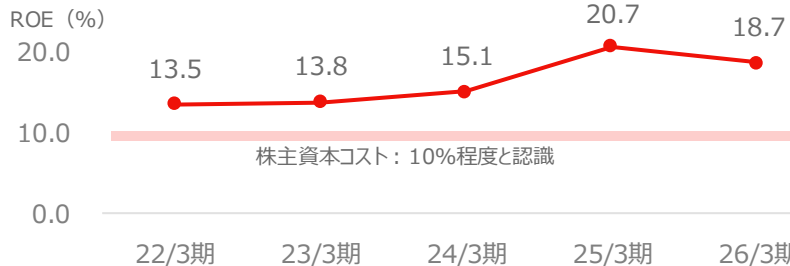
Draftモード 73 m<sup>2</sup>/hの高生産性と当社のプリント技術で高画質を実現、搬送機構の改良やユーザービリティを刷新し、常に高品質で安定したプリントを可能にする水性昇華転写インクジェットプリンタ

# 資本コストや株価を意識した経営 現状分析①

- 株主資本コストは10%程度と認識。継続的にモニタリングし変化状況を把握している
- ROEは高水準にあり、株主資本コストを超えているが前期比では低下
- PERは10倍以下と低位にあり、プライム市場の平均である19.2倍\*からも大きく乖離しており、市場評価が得られていない状況が継続
- PBRは1.1倍とわずかに1倍を上回るものの、PERの改善が重要

\*プライム市場の加重平均PER (2026年3月現在)

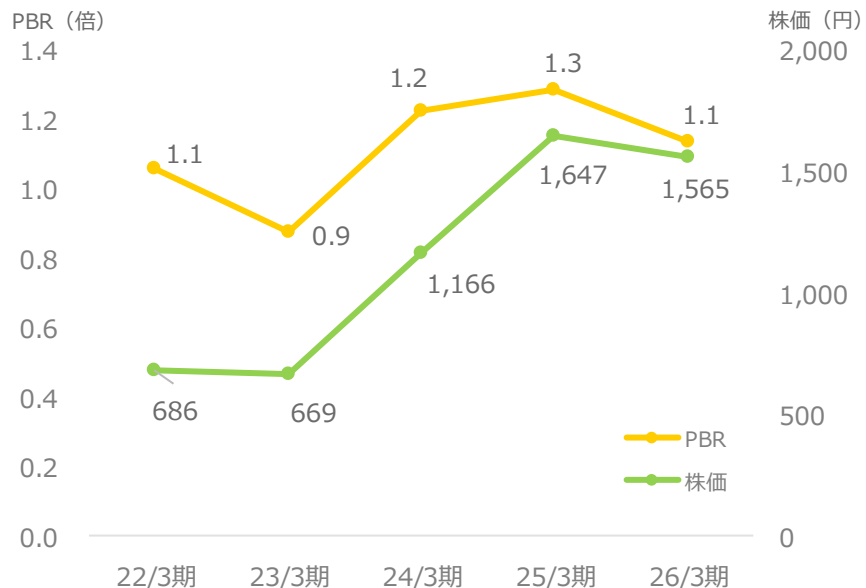
## ROEの推移：ROEは高水準



## PERの推移：PERは10倍以下と低位



## PBRと株価の推移



資本収益性 2026年3月末現在

		=	株価 1,565円	÷	一株純資産 1,377.54円			
	<u>PBR</u> 1.14倍							
		≡	PER 6.71倍	×	ROE 18.70%			
株主資本コスト 11.11%	<	ROE 18.70%	=	売上高純利益率 8.05%	×	総資産回転率 1.05回	×	財務レバレッジ 2.21倍
<u>WACC</u> 7.10%	<	ROIC 12.98%	=	税引後営業利益 7,280百万円	÷	平均投下資本 56,073百万円		

株主資本コスト（%）2026年3月期

株主資本コスト**11.11%** = リスクフリーレート + β値（感応度） × 平均マーケットリスクプレミアム

# 資本コストや株価を意識した経営に向けた対応



INN  
VATION 30

- 中長期成長戦略「[Mimaki Innovation 30 \(MI30\)](#)」を2025年5月に公表
- 2030年に売上高1,500億円、営業利益率8%以上を目指し、売上成長と収益性向上の両軸でROEの継続的な改善につなげる

## **収益性の持続的改善**

成長ドライバーである製品ポートフォリオの粗利率改善の追求と製品ラインナップの拡充  
売上高成長率（CAGR）10%を継続

## **成長投資の積極活用**

財務健全性を維持しつつ、内部創出キャッシュを成長投資へ積極活用  
イノベーションを担う新領域の専門人財の確保と高度教育のための人的資本の強化

## **資本効率の圧縮**

重点指標とする在庫マネジメント中心としたCCC\*改善

\*CCC: Cash Conversion Cycle

## **株主還元の充実**

業績の成長に見合った成果の配分を安定的かつ継続的に実施

## **株主・投資家との対話**

情報開示の高度化と開示内容の質的向上による期待成長の醸成  
資本評価獲得に向け一層の理解・認知度を高めるためのIR活動

- 当社は成長途上にあることを踏まえ、さらなる成長に向けた投資を継続し、ROE・ROICの改善など資本効率の向上を図る

## 取り組み方針

### 取り組み方針

- ✓ 投資 : 主に研究開発費・人件費と効率的な費用執行に注力しながら実行  
全社の約3割を占める豊富な開発人材リソースを基盤に、イノベーション創出型の成長投資を推進  
毎期売上高比の7%を研究開発費へ投資を継続  
MI30 (2026年3月期-2030年3月期) の5年間はさらに1-2%を追加投資で充実した技術開発体制を構築
  - 主な投資内容 : 製品本体・インク等の新製品開発  
新領域 (Digital Paint、フレキシブル有機ELシート、セカンドブランド)
- ✓ 在庫 : 適正在庫水準を確保しつつ、在庫マネジメントの最適化を推進しCCCの改善を図る  
当社が未参入の領域など、製品ラインナップの拡充で付加価値戦略を継続
  - 2026年3月末現在 : CCC 4.67か月  
債権回転月数 2.07か月、棚卸資産 (在庫) 回転月数 3.56か月、仕入れ債務回転月数 0.96か月
- ✓ 借入金 : WACCを意識した資本構成の最適化を通じ、株主資本と借入金のバランスを踏まえた運転資金の調達と最適な自己資本利益率の確立を図る

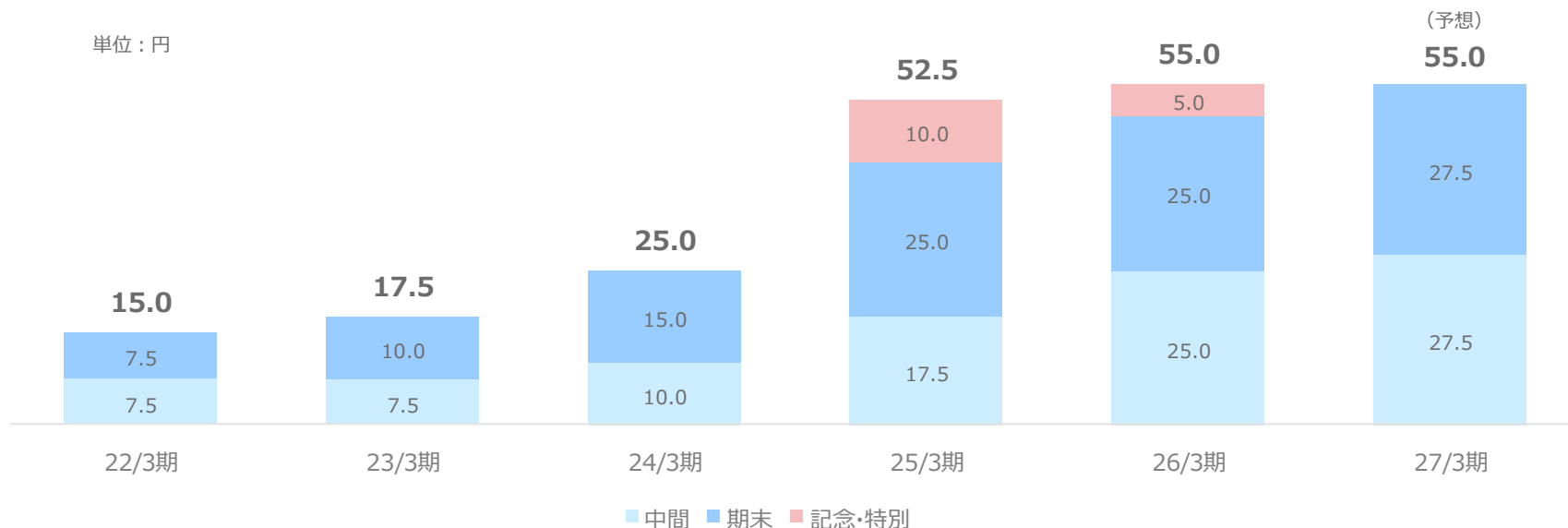
# 資本コストや株価を意識した経営 株主還元



- 財務健全性を確保しつつ、コア事業の産業用インクジェットプリンタ事業及びMI30で掲げる新たな領域の成長投資を継続
- 安定的かつ継続的な株主還元を実施。5期連続増配の実績
- 株式市場の動向に注視しながら還元策は総合的に検討
- 2027年3月期は、中間・期末配当ともに27.5円。1株当たりの年間配当は55円（前期普通配当比5円増配）を予定

## 1株あたり配当額推移

単位：円



- IR活動を通じた成長可能性の理解促進を訴求しPER向上と株式流動性向上に向けた個人投資家向け説明会の充実
- ガバナンス強化（リスクマネジメント・ESGへの取り組み強化）

## 取り組み状況

### 2026年3月期 IR活動実績

#### 機関投資家・アナリスト向け

取材対応 : 取材 102回、140名に実施（2025年3月期は113回、133名）

決算説明会 : 2回（中間・期末決算）

説明会書き起こしと動画配信をコーポレートサイトに新規掲載

スモールミーティング : 1回 新規や取材歴の比較的浅い機関投資家・アナリストを中心に  
会社理解促進に向けたショールーム見学とミーティングを実施

#### 個人投資家向け

会社説明会 : 3回

\* 会場開催では、展示ブースを設置。当社製品による制作サンプルを  
「見て・触れて」体感いただける場や対話の機会を提供

#### PR情報開示の積極活用

資本政策 : 投資方針と投資計画を開示（MI30 2025年5月公表）

「JPX日経中小型株指数」構成銘柄への新規選定

### ガバナンス強化・サステナビリティ

#### ガバナンス

- ・ 人的資本への取り組み強化  
企業価値向上に向けたインセンティブの検討
- ・ リスクコンプライアンス意識の徹底

#### サステナビリティ

事業を通じた取り組み

- ・ 環境に配慮したインクの市場投入
  - ① 作業者と環境に安全なUV硬化型インク
  - ② 環境配慮のELH/ELSインク
- ・ 太陽光発電導入（国内：加沢工場）
- ・ ジャパンハートへのユニフォーム寄贈
- ・ 持続可能な生産の実現に向けた次世代捺染システム「TRAPIS」を国際展示会Texworld\*に出展

\*Texworld・・・世界有数の繊維・アパレル調達見本市

## 2026年3月期 連結業績

1. 第4四半期・通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
3. 資本コストと株価を意識した経営の実現に向けた対応
4. 中長期成長戦略「MI30」進捗
5. APPENDIX



### **3DUJ-2207**

UV硬化インクジェット方式により、1,000万色以上のフルカラー造形を実現する小型3Dプリンタ。

一般的な石膏方式に比べ、約2倍の高精細な色表現が可能  
造形後の塗装では難しかった豊かな色彩を再現でき、玩具・フィギュア・建築模型・家電製品など、色の違いが印象を左右する精密な試作品用途を中心に、工業デザイン分野などで活躍

## 経営ビジョン

# 産業用印刷のデジタル化を推進する

1. 独自技術を保有し、自社ブランド製品を世界に供給する**「開発型企业」**を目指します
2. 顧客に満足いただける製品を素早く提供する小回りの利いた会社を目指します
3. 市場に常に**「新しさと違い」を提供するイノベーター**を目指します
4. 各人が持っている個性・能力を一杯発揮できる企業風土を目指します

**「お客様が儲かればミマキも儲かる」**

2027年3月期ミマキグループ経営方針：**「変革する」**

技術基盤及び開発マネジメントの強化による構造改革を推進し  
需要構造や事業環境の変化に機動的に対応できる実行力を高めることで  
**コア事業の着実な成長と新たな価値創造に向けたイノベーションに取り組む**



安定的な収益性で売上高成長の追求を継続し、資源の積極的な活用により  
新たな領域にチャレンジすることで、  
2030年3月期（FY2029）に売上高 1,500億円 を目指す

\*2025年5月公表



詳細はウェブサイトをご参照  
ください

<https://ir.mimaki.com/about/mi30.html>

## 1. 安定的な収益性の維持・強化

- ・ コア事業の成長と粗利率改善の追求を継続
- ・ 売上高成長率（CAGR）10%以上を継続し、2030年3月期（FY2029）に売上高1,500億円、営業利益率8%以上を目指す
- ・ イノベーションに適切な新製品を継続的に市場へ投入し、新製品売上高比率（NPVI）年30%の達成

\* NPVI：新製品売上高比率（New Product Vitality Index）

## 2. 新たな領域へのチャレンジでInnovationの創出

- ・ 塗料・工業用機能材料などの **高粘度領域** にチャレンジ。IP市場向けの飛躍的な拡大を目指し、**Digital Paint**領域へ
- ・ フレキシブル有機ELシートでデジタルサイネージ事業にチャレンジ
- ・ セカンドブランド「ミマキ ラメカニカ」を立ち上げ、プリンタ・カッティングの周辺機器へ進出
- ・ 3Dプリンタ事業の進化を推進、事業拡大で3Dをコア事業の新たな柱とすべく育成
- ・ Mimaki Innovation 30（2026年3月期～2030年3月期）の5年間は既存の開発投資とは別枠で、新たな領域への投資に売上高の **1～2%** を充当

## 3. 技術開発マネジメント体制の確立と人的資本の拡大

- ・ 新製品の開発スピードを向上し、競争力のある開発体制を構築
- ・ AIの活用による業務効率化、DXによるプロセス改革、ノーコード化とユーザーインターフェイスの最適化を推進し、経営管理体制の高度化を図る
- ・ 技術開発から営業力強化に至るまで、全社的な専門教育の深化で新しさと違いを提供するイノベーターの創出

## 2026年3月期～2030年3月期 実績と計画

	MI30策定時		2026年3月期 実績
	2025年3月期 実績	2030年3月期 計画	
<b>財務目標</b>			
売上高	839億円	> 1,500億円	837億円
営業利益率	10.9%	> 8%以上	11.3%
<b>経営指標（目標）</b>			
売上高成長率（CAGR）	10.98%	> 10%以上	-0.24%
新製品売上高比率（NPVI）*	22%	> 30% /年	25%

\* 新製品売上比率・・・プリンタ本体の他インク等の製品も含む

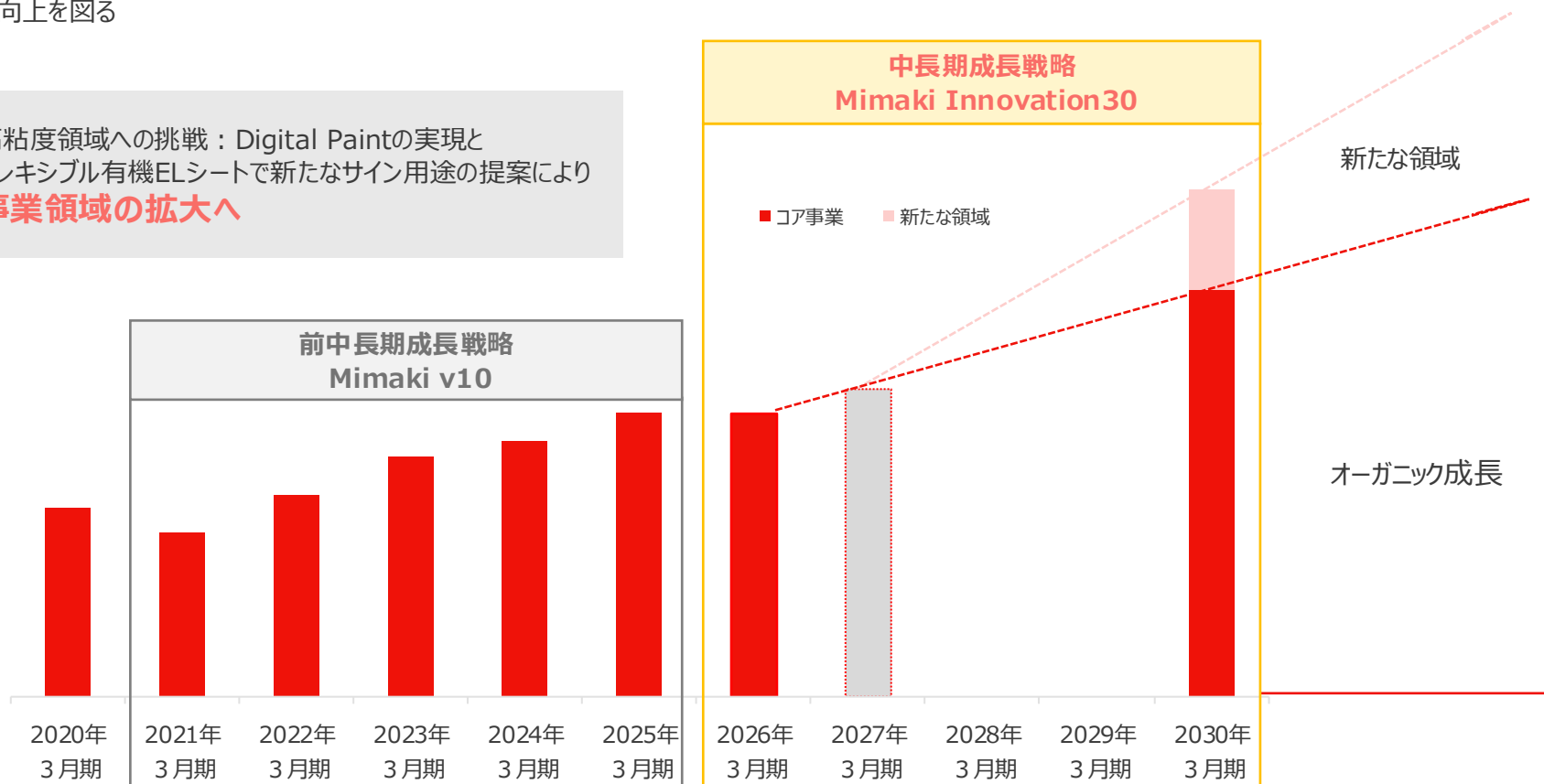
（ご参考）		2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
	プリンタ本体新製品数			
	SGプリンタ本体	3	3	4
	IPプリンタ本体	1	1	1
	TAプリンタ本体	2	5	2
	合計	6	9	7

\* 新製品・・・3期以内に上市した製品

# 売上高推移と新たな領域の成長イメージ

コア事業の安定的な収益性による継続的な成長のもと、新たな領域への進出でさらなる飛躍を目指すことで、企業価値の向上を図る

高粘度領域への挑戦：Digital Paintの実現とフレキシブル有機ELシートで新たなサイン用途の提案により  
**事業領域の拡大へ**



# 売上高推移：インクのスケールメリット（インクの移動平均）

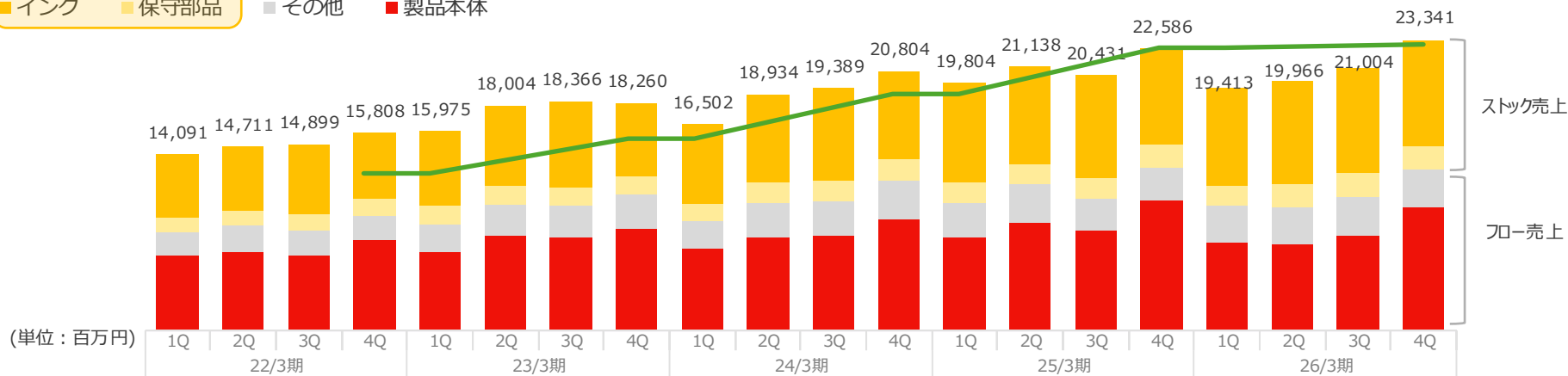
- 製品本体の市場稼働台数の拡大に伴い、**インク・保守部品等のストック売上**が着実に増加  
安定的な消耗品需要の拡大が、収益基盤の強化に寄与
- これらの消耗品需要を原資として、開発投資を継続できる好循環を構築

**ストック売上**  
■ インク ■ 保守部品

■ その他 ■ 製品本体

## 売上高

— インク：12か月移動平均



(単位：百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
	22/3期				23/3期				24/3期				25/3期				26/3期			
合計	14,091	14,711	14,899	15,808	15,975	18,004	18,366	18,260	16,502	18,934	19,389	20,804	19,804	21,138	20,431	22,586	19,413	19,966	21,004	23,341
■ インク	5,092	5,162	5,518	5,266	6,045	6,367	6,926	5,902	6,345	7,105	7,409	7,138	7,891	7,771	8,198	7,737	7,801	8,224	8,394	8,511
■ 保守部品	1,126	1,194	1,374	1,313	1,349	1,492	1,474	1,437	1,364	1,555	1,577	1,685	1,695	1,715	1,756	1,740	1,685	1,913	1,909	1,978
■ その他	1,901	2,084	2,025	2,061	2,291	2,577	2,462	2,778	2,220	2,829	2,841	3,066	2,810	3,049	2,476	2,691	2,905	2,867	3,073	3,051
■ 製品本体	5,970	6,270	5,981	7,167	6,288	7,566	7,503	8,141	6,572	7,443	7,560	8,914	7,407	8,602	8,000	10,416	7,021	6,961	7,626	9,800

SG市場向け  
サインはミマキ

- 2025年4月  
UJV300DTF-75リリース  
JV200-160/-130リリース
- 2026年3月  
UJ330H-160リリース



今後の戦略

- ラインナップ戦略の継続
  - ・ 途上国エリアへの注力
  - ・ 生産性を重視した開発の促進
  - ・ 市場拡大を捉える高生産性製品の開発

IP市場向け  
産業印刷のデジタル化の推進

- 2025年10月  
UJF-7151 Plus II eリリース\_小型FB



今後の戦略

- 小型FBモデルの市場投入
- 省人化モデルの開発推進
- 3D事業はマルチマテリアルを見据えた技術の進化

TA市場向け  
サステナブル領域への追求

- 2025年9月  
TS200-1600リリース\_昇華転写
- 2026年1月  
TS330-1800リリース\_昇華転写  
(インク：Sb411 新色2色リリース)



今後の戦略

- 小型FBモデルの市場投入
- ラインナップ拡充に注力した開発の推進
- 環境配慮製品への取り組み
  - ・ ネオクロマトプロセス（脱色装置）の市場投入  
2027年を目指す

インク

- 2025年5月 **環境対応** UV硬化型サステナブルインク ELH,ELSリリース/SG・IP → **今後の戦略**
- 2025年11月 低コストの10kg大容量インク AP50リリース/SG ➢ 用途拡大を見据え、市場ニーズに応じた競争力あるインク開発を加速

## ハイブリッドUVインクジェットプリンタ **UJ330H-160**



### 厚みを超えた表現力、産業プリントの新基準

- ◆ ロール・リジッド（ボード）素材のダイレクトプリントに1台で対応
- ◆ サインの提案を広げるメディア対応力（塩ビ、ターポリン、壁紙、布地など）
- ◆ ホワイトインク・クリアインク・最大5層までの多層印刷
- ◆ 「Next Standard」として、売上拡大を牽引

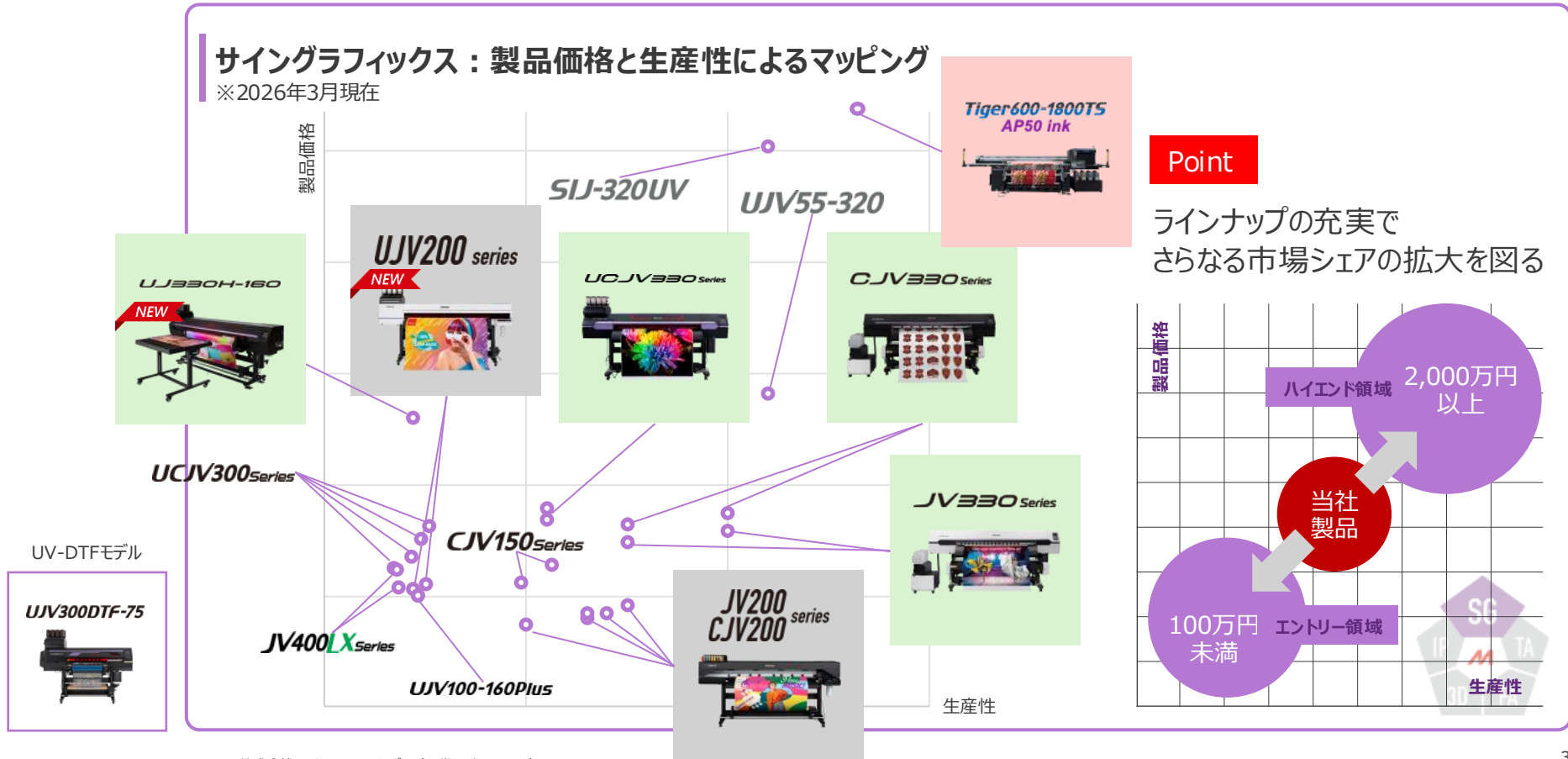


製品写真：24年3月期 - 26年3月期 リリース

■ エントリーモデル ■ ミドルモデル ■ ハイエンド（フラッグシップ）モデル

## サイングラフィックス：製品価格と生産性によるマッピング

※2026年3月現在



ハイパフォーマンスフラットベッド  
UV-LEDインクジェットプリンタ  
**UJF-7151 plus II e**



幅広いグラフィックをこの1台で

- ◆ 高画質・高精度プリント：最高1800dpi対応
- ◆ 高生産性：菊半裁に対応した最速8.0m<sup>2</sup>/h\*の生産性 \*4C+4C 600×600dpi 6Passの場合
- ◆ 選べる8ヘッド/スタガ配列構成
- ◆ LD3モード（最大10mmの深さに対応）によりUVフラットベッド市場でのポジションを強化

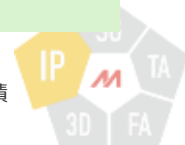
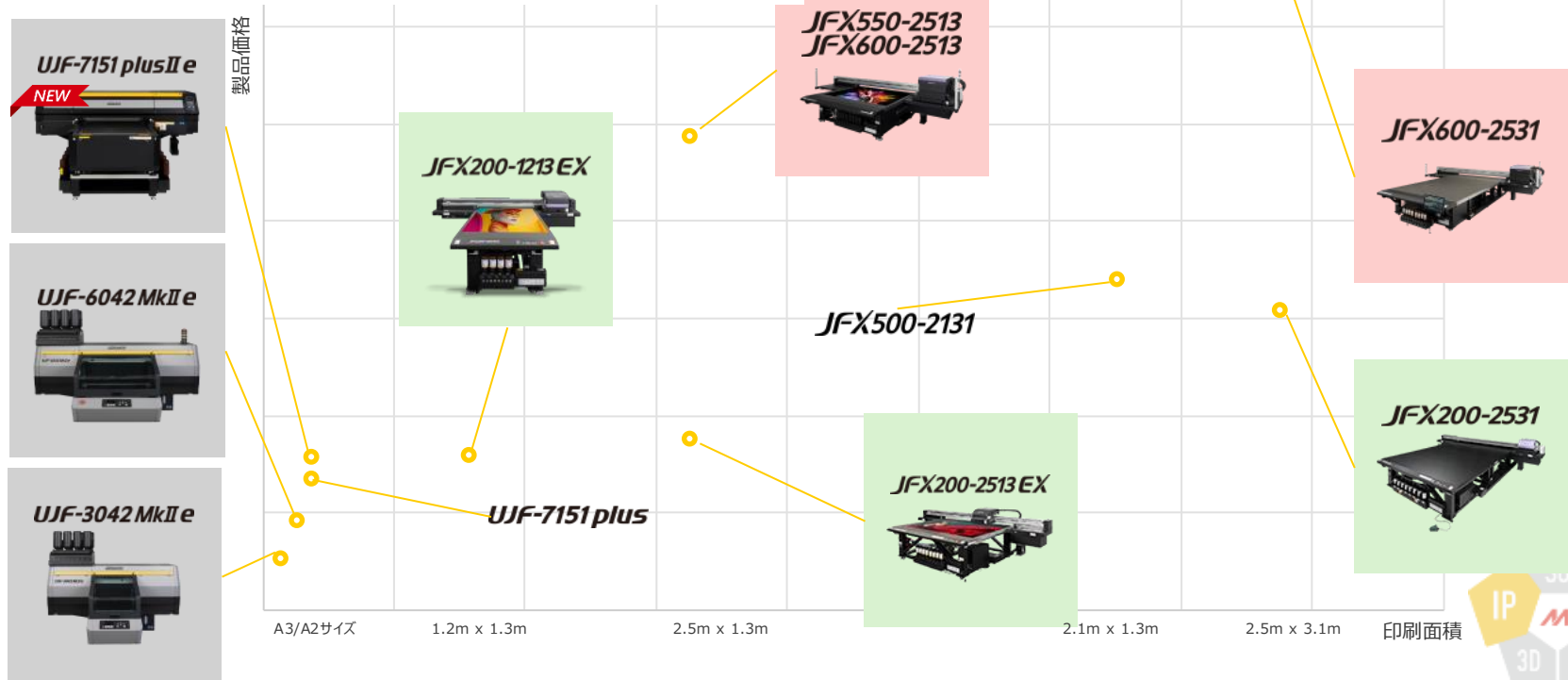


製品写真：24年3月期 - 26年3月期 リリース

■ エントリーモデル ■ ミドルモデル ■ ハイエンド（フラッグシップ）モデル

## フラットベッドモデル：製品価格と印刷面積によるマッピング

※2026年3月現在

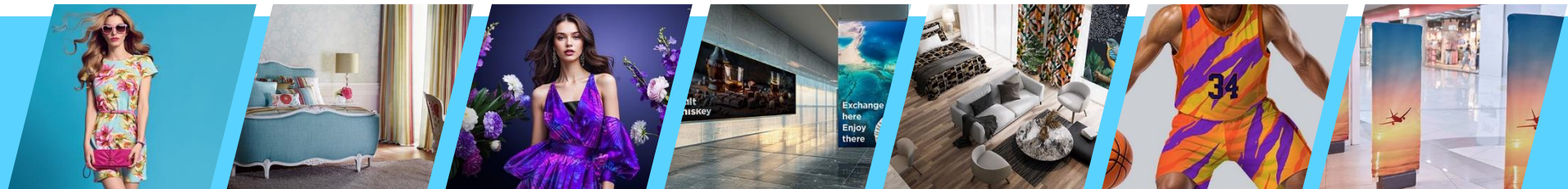


昇華転写インクジェットプリンタ  
**TS330-1800**



“新しい価値”を追求したフラグシップモデル

- ◆ Draftモードで従来機の146%※の印刷速度を実現！  
※TS330-1800とTS55-1800同等画質との比較
- ◆ 高画質を実現する新ドロップ技術「Mimaki Weaving Dot Technology (MWDT)」を搭載
- ◆ 搬送制御を刷新した新搬送機構による安定稼働
- ◆ 1.8m幅で大量にプリントするため、インクの持続的な売上拡大に貢献

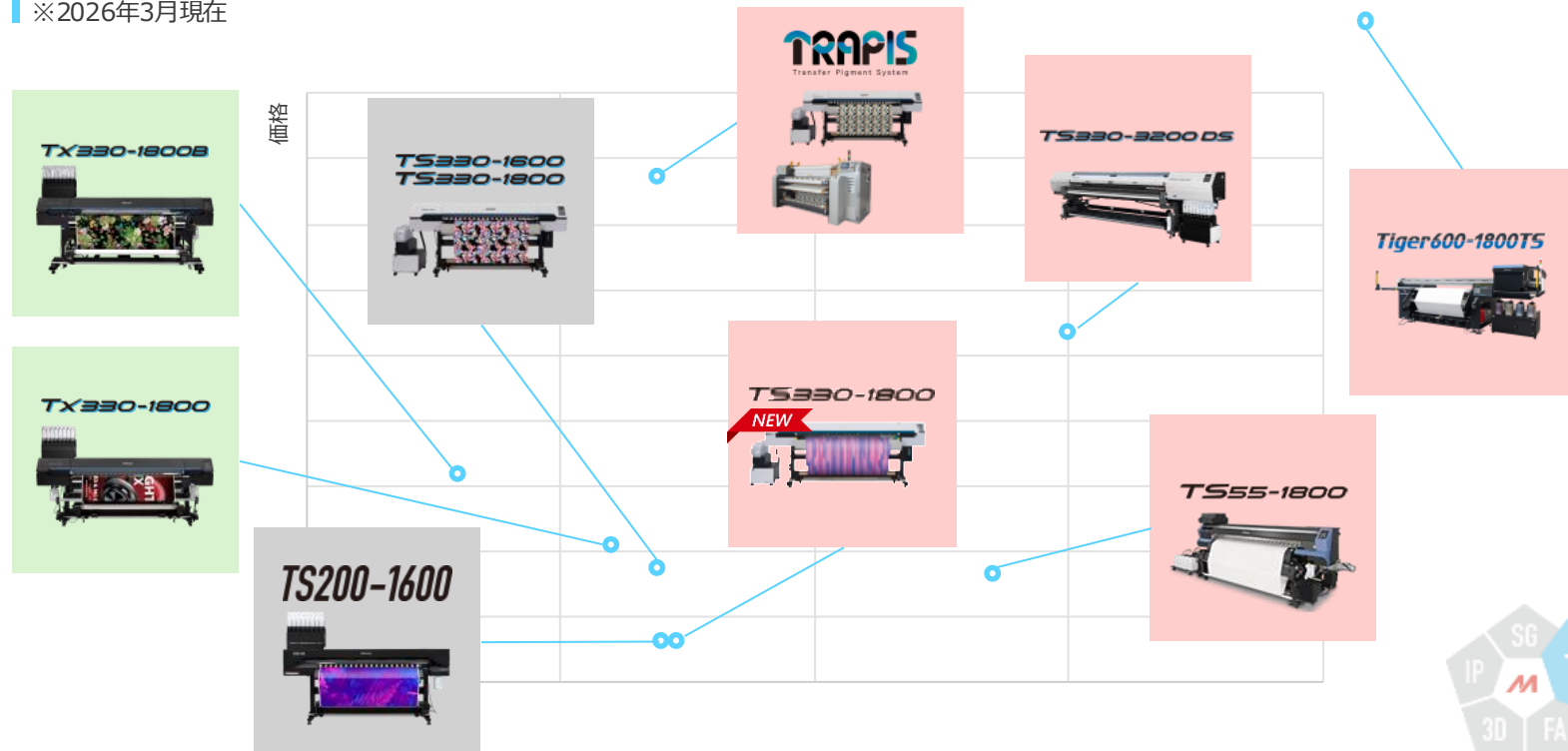


製品写真：24年3月期 - 26年3月期 リリース

■ エントリーモデル ■ ミドルモデル ■ ハイエンド（フラッグシップ）モデル

## 昇華転写モデル：製品価格と生産性によるマッピング

※2026年3月現在



## 加沢工場 F棟 竣工



- 工場スペースの不足解消と開発体制の強化を目的に主力工場である加沢工場（長野県東御市）にF棟を竣工
- 建物は鉄骨造の2階建て、延床面積は約4,000㎡で、試作機の評価スペースとして使用
- 2026年4月より稼働開始

2026年3月

## プリンタとインク「3M™ MCS™ 保証プログラム」に認定



- 当社プリンタ330シリーズ（UCJV330）とLED-UVインク（LUS-200、LUS-170）が、3M™ 社の「3M™ MCS™ 保証プログラム」に認定
- 本プログラムは、お客様へ高品質なグラフィックスを届ける仕組み

2026年2月

「MI30」に掲げる新たな4領域へチャレンジを推進中

## Digital Paint 高粘度領域

塗料のデジタル化

### インクヘッド開発

外部パートナーとの共創により  
ミマキの技術力の最大化を図り  
マルチマテリアル実現へ



## 周辺機器への取り組み

インクジェットプリンタの付帯設備の取り組みで  
顧客の“安心”を創出

2027年3月期下期の  
市場投入を目指し  
開発進行中



Made in JAPAN  
Made by Mimaki



## フレキシブル有機ELシート

インクジェット生産による  
低コストな有機ELシートの実現

進化した  
デジタルサイネージの実現

\*画像は生成AIによる作成

## 3D事業の進化

様々な素材の3D印刷実現で  
広がる市場

3Dプリントデータ  
最適化ソフトをアップデート

3Dプリントの市場拡大を見据え  
データ準備の簡易化・自動化の解決

\*ソフトの提供開始は2026年6月(予定)



3DUJ-553

- ◆ 既存の開発投資は従来どおり**売上高の7~8%**を積極的に投資
- ◆ 開発投資とは別枠で、新たな領域への投資に**売上高の1~2%**を充当

## Mimaki Innovation 30 (2026年3月期~2030年3月期)

**投資額：約780億円**

### 既存事業への投資

設備投資（生産性向上） 約230億円  
コア事業への開発投資 約460億円

### 成長投資

イノベーション投資 約90億円  
\* 人的資本投資を含む

### 株主還元

## 2026年3月期実績

**既存事業への投資 105.8億円**

設備投資 41.3億円  
コア事業への開発投資 64.5億円

**成長投資 3.2億円** \* 人的資本投資を除く

イノベーション投資：新たな領域  
高粘度ヘッド開発、フレキシブル有機ELシート、インク等

### 株主還元

年間55円/1株当たり  
中間 25円、期末 30円（普通配当25円、記念配当5円）

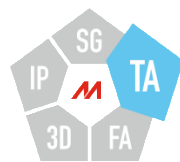
株主還元 基本方針（変更なし）

業績の成長に見合った成果の配分を安定的かつ継続的に行う

持続的な成長のため、手元資金の活用など資本を効果的に割り当て、新たな成長領域のため積極的な投資を実施（継続）

## 2026年3月期 連結業績

1. 第4四半期・通期実績
2. 2027年3月期 通期予想
3. 資本コストと株価を意識した経営の実現に向けた対応
4. 中長期成長戦略「MI30」進捗
5. APPENDIX



### TS200-1600

初めて昇華転写プリンタを扱う方でも簡単に高品質なプリントが可能なテキスタイル・アパレル向け昇華転写インクジェットプリンタ  
当社フラグシッププリンタに搭載の「330エンジン」の高密度・高精細プリントヘッドをシングル搭載  
均一で美しい高濃度カラーや精細なデザインを実現

## 経営ビジョン

1

独自技術を保有し、  
自社ブランド製品を  
世界に供給する  
「**開発型企業**」を  
目指します

2

顧客に  
満足いただける製品を  
素早く提供する  
小回りの利いた  
会社を目指します

3

市場に常に  
「**新しさの違い**」を  
提供する  
イノベーターを  
目指します

4

各人が持っている  
個性・能力を  
力一杯発揮できる  
企業風土を  
目指します



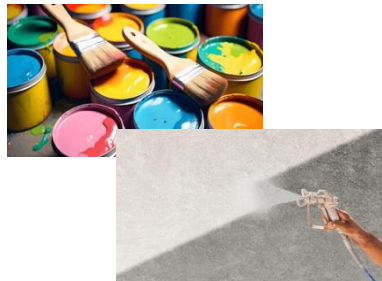
商号	株式会社ミマキエンジニアリング		
設立	1975年8月	資本金	4,357百万円
本社	長野県東御市滋野乙2182-3		
代表者	代表取締役社長 CEO 池田 和明		
従業員数	連結：2,152名 単体：936名 ※2026年3月末現在		
上場市場	東京証券取引所 プライム市場 / 証券コード 6638		
発行済株式総数	32,040,000株 (単元株=100株) ※2026年3月末現在		

安定的な収益性で売上高成長の追求を継続し、資源の積極的な活用により新たな領域にチャレンジすることで、  
2030年3月期に売上高 **1,500億円** を目指す



詳細はウェブサイト  
(2025年5月16日公表)  
をご参照ください。

<https://ir.mimaki.com/about/mi30.html>



チャレンジ1

高粘度領域

粘度の低いインクから  
粘度の高い塗料の分野へ

チャレンジ2

フレキシブル有機ELシート

インクジェット生産による  
低コストな有機EL



※この画像は生成AIによって  
作成されたイメージです

チャレンジ3

周辺機器への取り組み

印刷の前後装置を提供し  
顧客の“安心”を創出

チャレンジ4

3D事業の進化

様々な素材の3D印刷  
実現で大きく広がる市場



3DUJ-553

様々な素材



Made in JAPAN  
Made by Mimaki

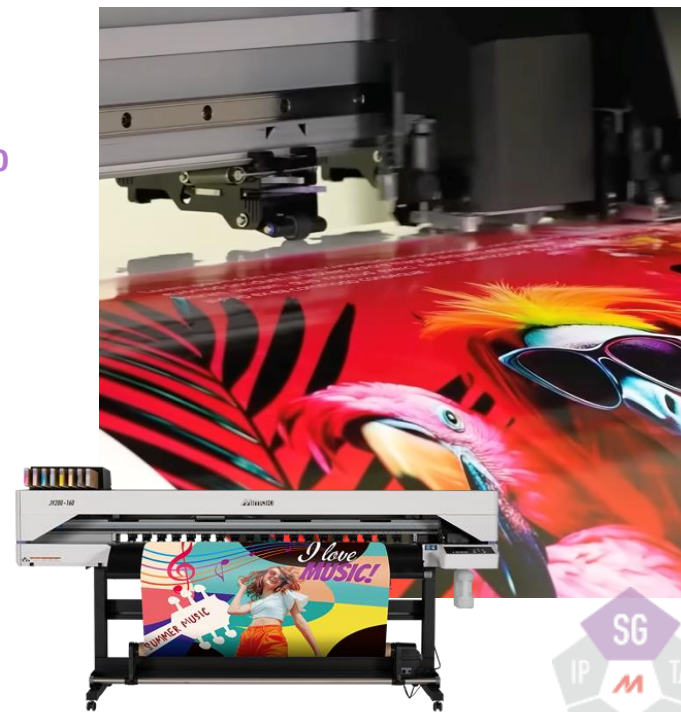
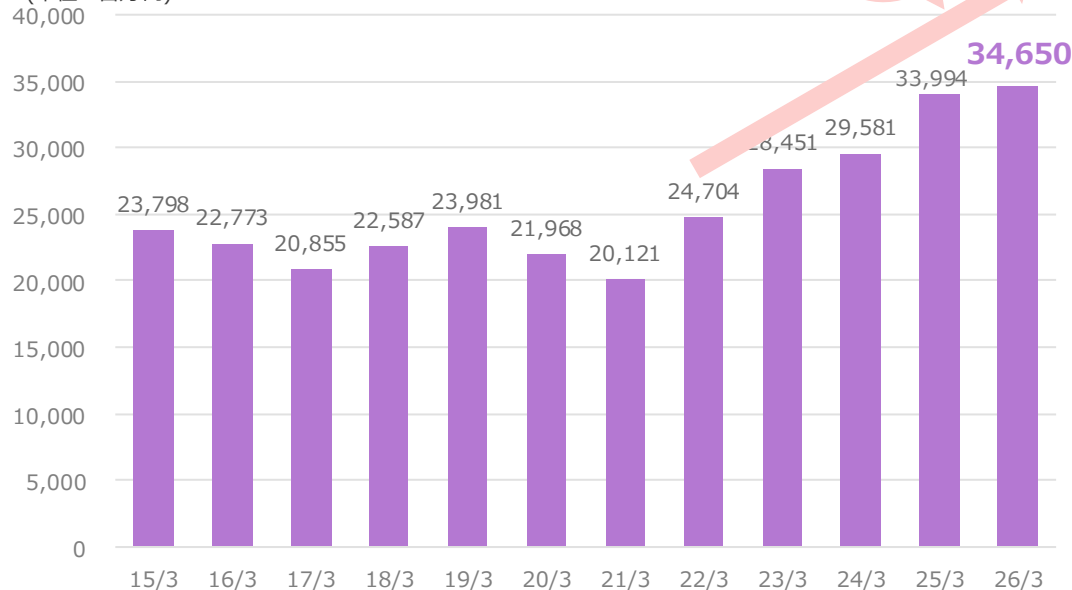
※MI30 : Mimaki Innovation 30

売上高推移

■ SG売上高

5年伸び率  
140%

(単位：百万円)

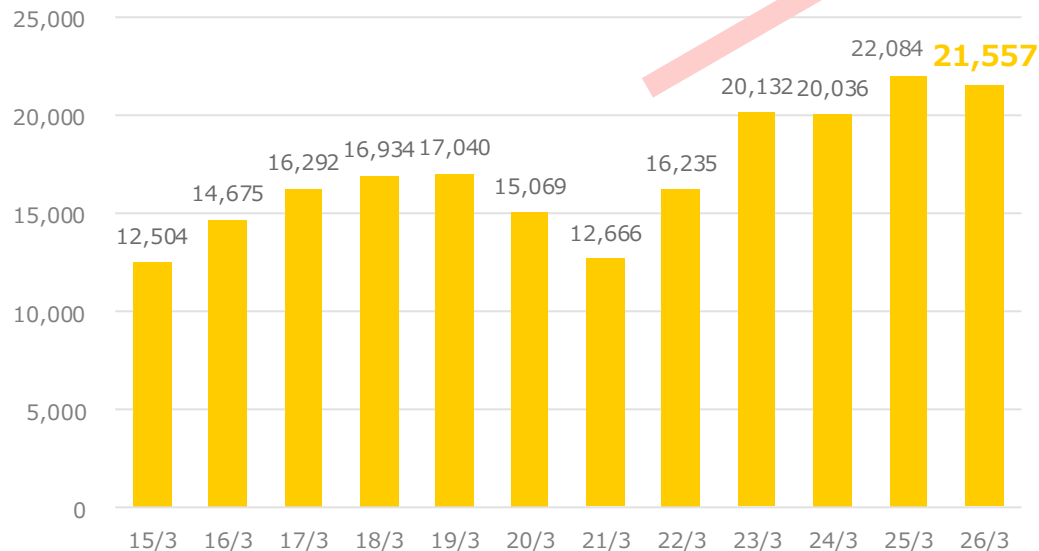


## 売上高推移

(単位：百万円)

■ IP売上高

5年伸び率  
133%

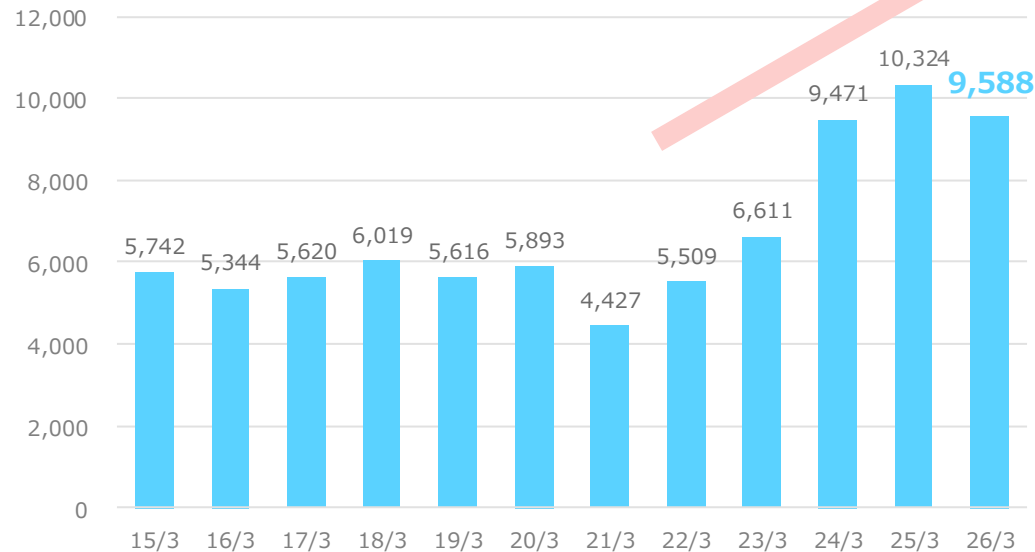


## 売上高推移

(単位：百万円)

■ TA売上高

5年伸び率  
174%



## ソルベントインク

溶剤：PVCアタック：前処理不要



屋外耐候性

ソルベント（有機溶剤）がPVC※の表面を侵食し揮発、顔料が食い込むことで高い屋外耐光性/耐候性/耐擦過性を実現するインク

- 環境配慮型のインクで認証取得

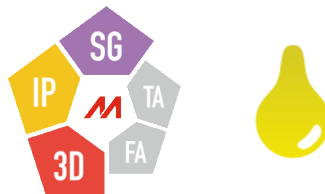
対象素材：PVC※など



※PVC=ポリ塩化ビニール

## UV硬化インク

紫外線で硬化：素材を選ばない



紫外線で即硬化

UV光（紫外線）を照射させることにより、硬化・定着するインク

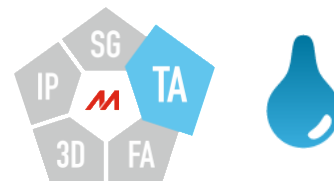
- 乾燥時間が不要
- 様々な素材へ印刷

対象素材：樹脂、ガラス、金属など



## 水性昇華インク

高温でガス化、ポリエステルに着色



水を使用しない染色

ポリエステル素材へのプリントを飛躍的に美しくする高濃度インク

- 紙転写 / ダイレクト印刷に対応
- 蛍光色にも対応し発色が鮮やか

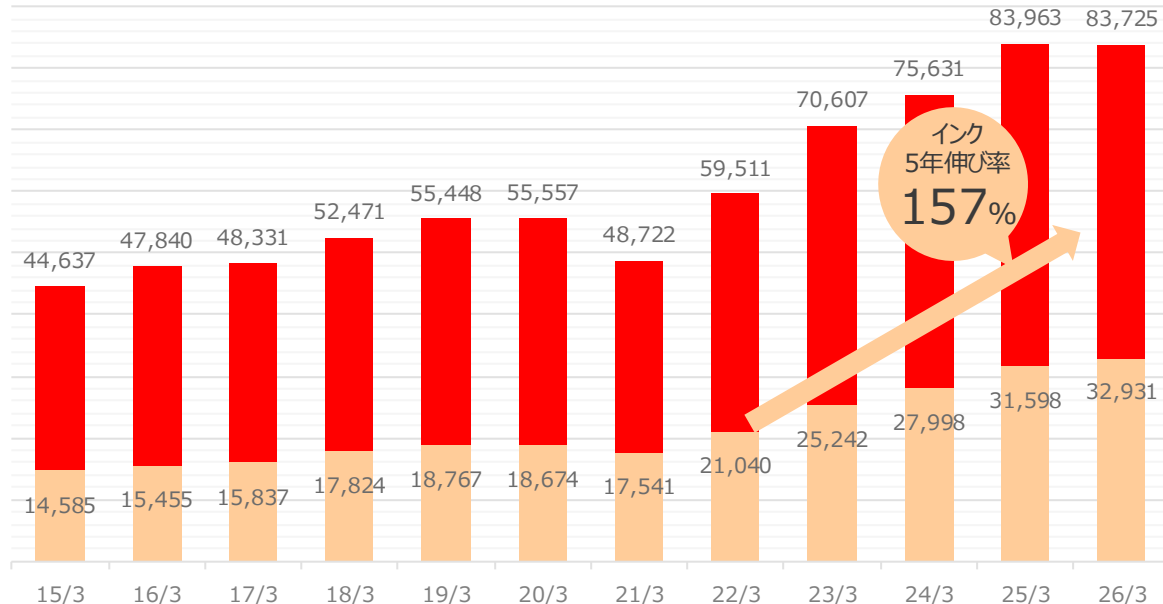
対象素材：ポリエステル



## 売上高とインク売上高の推移

(単位：百万円)

■ 売上高 ■ インク売上高



[ 紙製インクカートリッジ ]



- インクの5年伸び率は157%と急増
- 稼働台数の増加に伴い、インクの売上高も増加
- TAプリンタ販売数増加、特にTシャツ用途で使用される白インクが伸長









ストックビジネスであるインクは、販売数量の増加に伴い、収益の安定化に貢献

持続可能な社会への貢献を、さらに効果的・効率的に推進すべくサステナビリティ方針とマテリアリティ※

## 当社グループのサステナビリティ方針

※重要課題

1. 産業印刷のデジタル・オンデマンド化を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する
2. 安心して成長・挑戦できる職場環境を提供し、地域社会の維持・発展に尽力する

マテリアリティ	関連するSDGs番号
既存・新規事業を通じた産業印刷のデジタル化 インクジェット×デジタル・オンデマンド印刷で、 サステナブルなものづくり	      
イノベーションを通じたサステナビリティへの貢献 技術力で社会課題にソリューションを	      
グループ人財の活躍と地域社会の活性化 挑戦を貴び、安心して働ける職場作り 地域とともに歩み続ける地元企業として	      
責任あるサプライチェーンの実現 環境リスク等の予防・低減、製品の安定供給へ	     
企業成長に応じたガバナンスの徹底 テクノロジーや教育を活用し、経営管理体制・内部統制を強化	



IRメール配信  
登録はこちら



本資料に関するお問合せ先



株式会社 **ミマキエンジニアリング**

I R 部

<https://ir.mimaki.com/>



〔本資料お取扱い上のご注意〕

本資料は、株式会社ミマキエンジニアリング（以下、当社）を理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。